

芋煮会

「芋煮会とは、日本の主に東北地方で行われる季節行事で、秋に河川敷などの野外にグループで集まり、サトイモを使った鍋料理などを作って食べる行事である」とウィキペディアの最初に書かれていますが、…芋煮会の由来は諸説あるが、発祥の地は山形県東村山郡中山町とされている。それは江戸時代の元禄時代の頃までさかのぼる。当時、山形県の特産品である「紅花」などを京都へ運ぶため、北前船の舟運が盛んだった。最上川を行き来していた船頭たちは、上りの船で運んできた物資の積み下ろしや、下り船に積み込む物資を買い付けるため、当地に何日も滞在した。この時、船頭たちが一時の休息をかねて作っていたのが「棒鱈鍋」。地元で採れた里芋と、自ら運んできた棒鱈などの干魚と一緒に煮た鍋料理である。…大正の頃まで、北前船でにぎわった元船着場の脇に「鍋掛松」と呼ばれる老松があったそうだ。この場所は、船頭たちが休憩場所として使ったと言われている。船頭たちは、松の枝に鍋をつるし、棒鱈鍋を作って食べていたのだろう。これが屋外で芋煮を作って食べる芋煮会の原点とされている。…大まかに芋煮の傾向を分けると、内陸部の芋煮はあっさり系の醤油味。庄内地方は味噌味、米沢などは、ブランド牛の産地とあって贅沢に牛肉を使っとうまみを出している。各地で味付けに違いがあるのも、芋煮がご当地料理として親しまれている証拠だろう…そして、関東、関西の方は、芋煮会と聞いてもピンとこないかもしれない。しかし、山形では家庭料理としても親しまれ、宴会など大勢の人が集まる席では欠かせない料理である。長い冬を前に、皆で河原に集まって芋煮を作る。更に最上川で採れた新鮮な鮎を塩焼きにして添えれば、酒飲みには言うことなしのご馳走。自然の中での里芋をほおぼると、その味も一段と美味しく感じるのだ。

…何事も物事を突き詰めていくと深い深いものがあります。この芋煮なども蒞蓄（うんちく）はまだまだ続きます。……

塾長が仙台に来て教わったのは、芋煮は山形風と宮城風の2種類があり山形は「牛肉に醤油」宮城は「豚肉に味噌」ということのようにでしたが、単に山形、宮城に分けるのではなく、山形でも様々な味付けがあるようです。

ところで、私どもで行う「芋煮会」は親睦会の主催行事として大変な人気があります。塾生（一般の部・子供の部）だけでなく、保護者、兄弟、配偶者の方なども自由に参加できる行事として、新年の「鏡開き・餅つき」と並ぶ人気の二大行事の一つです。

場所は秋保森林スポーツ公園で開催し毎年150人から200人が参加するのですが、平成24年には過去最大の272名が参加しました。

用意する芋煮は一般的な山形風と宮城風の2種で、「牛肉に醤油」、「豚肉に味噌」の2種類の味が楽しめます。芋煮は薪に火をつけることから始めます。作るという過程も芋煮の楽しみとなっていて皆で『このタイミングで野菜・調味料を入れて』『アクを取って』『火加減が強すぎる』などワイワイ言いながら作ります。

よくしたものでこのような時には、必ず鍋奉行がいて色々差配していただけるので大変助かっています。毎年お手伝いしてくれる人は、煙にまかれないうようにゴーグルを持参したりと準備万端のうえ、皆さんが手際よく芋煮を作ってくださいます。

塾長など口出しをしない方がいい人は、作る人の邪魔にならないよう、早速ビールをいただきながら談笑して出来上がるのを待っています。1時間ほどで芋煮が出来上がります。

ほとんどの人が両コースを食べ比べ、「今年の山形味はとても美味しい」、「いや私は宮城風がいい」と味談義が必ず始まります。ひとしきり芋煮を楽しんだ後、12時頃からは肉を焼きます。集まりの人数にも寄りますが、20～30キロの肉です。芋煮よりも焼き肉を楽しみにしている人もいます。気の利いた子供たちは焼きあがった肉を大人たちの所に配っていきます。またそれぞれの家庭から持参した漬物、枝豆などを交換したりと談笑しながら芋煮を焼肉をビールをお酒を250名以上の人たちが、大きなテント2ヶ所に適当に分かれてグループでいただいています。

また会場には子供が遊べるようにジャングルジムや回旋塔、滑り台、トランポリンなどがあり広場では子供達がバトミントンや竹馬、ボールを蹴ったり投げたり、かけっこしたり自由に遊びまわっています。普段は稽古場所が違いますので、初めて会った子供たちもいます。また、合宿で仲良くなった子供との再会を喜んでいる子もいますが、どの子もそれぞれが皆仲良く遊んでおります。

昨年は、3,11大震災、そして台風による被害と暗いことの多い年でしたが、あの悲惨な状況が嘘のような光景であります。参加した方の中には自宅が全壊して、仮設住宅に入っている方などもおられました。

それでもご家族で参加し、一時でも安らぎ、楽しさを味わっていただけたのなら幸いです。例年のように14時に集合写真を撮り、片付けをし、ご家族でこられている方は三々五々帰られ、バスの方は15時に芋煮会場を後にし、仙台駅へと向かい解散いたしました。

辛いこと、苦しいことなどはこのような親睦会などの活動を通して、また日々の合気道の稽古などで少しでも和らげられたら何よりです。